

(平成 30 年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	3
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9
② やおき工房	13
③ ゆうあいホーム (白浜町・上富田町舎)	20
④ 陽だまり	23
⑤ 訪問介護支援センター	26
⑥ ハモニティ	28
⑦ 紀南障害者就業・生活支援センター	32
⑧ 紀南地域活動支援センター	36
⑨ サンヒルズ (みなべ町舎)	38
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・くまのこ作業所	40
⑪ こどうの家	46
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所	48
(白浜町)	
⑬ かへむ	52
(みなべ町)	
⑭ すまいる	55
(すさみ町)	
⑮ いなづみ作業所	61

法人 事業報告

30年度の事業計画法人基本方針に沿って以下の点に取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

30年度においては総合支援法の一部改正があり、就労継続支援B型の工賃ランクの設定、計画相談支援の複雑化、就労や地域生活の定着を目的とした新規事業の施行などにおいて、より利用者個人への視点とサービスの質を理由とした「格差」が顕著になってきている。

法人にとっては、情報公開とガバナンス強化、実質的な地域貢献への視点も求められるなか、一層、厳しい状況となる中、人権擁護、虐待防止、差別解消等、法令順守を踏まえ、質の向上に取り組んできた。

- ① 相談窓口においては、法人内福祉サービス事業所の枠を超え、他法人資源との調整等を実施するとともに、加算等に対応した質の向上に努めた。
- ② グループホームについては、ゆうあいホーム、サンヒルズにおいて拠点間の再編を行い、合理的な運営を確保するとともに安全・快適な生活、集団関係を大切にした関わりと生活の質を高めるための個別支援を行った。クローバーの整備については、助成金の申請を行ったが、採用に至らず、南紀の台物件の利用と一体的に次年度へ持ち越すこととなった。
- ③ 一般就労については制度の水準達成とともに就労定着を重視した支援を行った。就労系事業所ではB型事業所の工賃アップを目標とした授産努力を連携で行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのレベルアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。
- ④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに自治集団支援と各種交流やレク・旅行などに取り組んだ。また、夜間・休祭日などにおいても個別の特性に応じた相談や不安対応などを行った。
- ⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間の連携を密に行うとともに、相談と合わせて個別の支援を行った。
- ⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行い、利用者の意見を尊重した支援を行った。
- ⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについて法人内で研修を実施し、継続して人権意識の向上に取り組んだ。
- ⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援体制について検討を行い、高齢資源との連携を図ってきた。その他、障害者・高齢者等の居住問題への対応について検討を行った。

2. 新たな財務運営

昨年に引き続き「新社会福祉法人制度」に基づいた運営を行った。「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、30年度においても対象とはならない運営を行うことができた。

- ① 事業を確実かつ適正に実施する為の、経営基盤の強化について第1次補正～第3次補正までの提案を行い、安定的な運営を確保するとともに、状況を共有した。
- ② 各事業の利用状況について、月次に所長会議を通じて把握を行い、収支のバランスを確保しつつ、運営課題の検討を行った。また、平成30年度から実施された「総合支援法の一部改正＝報酬単価の改定」により、給付単価が下がった減収を解消するために休日開所や安定した通所を継続してもらうための検討などを行った。
- ③ 固定資産の取得及び大規模な施設整備に関しては、今年度は実施を見送り、老朽化した車両の入れ替え等の整備のみとなった。当初予定していたグループホームの新設については国の補助申請に漏れたため実施できなかった。
- ④ 31年度以降の計画的な投資についても、所長会議で諮りながら優先順位を確認しつつ、新たな必要性についての検討を図った。
- ⑤ 職員の処遇改善を踏まえ、昨年度より実施した正規職員と非正規職員の格差是正の取り組みを今年度も継続した。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、平成30年度も離職に伴う適時の採用はむずかしい部署もあり継続的に募集を続けたところもあった。学校求人については1昨年に試みを行ったが、給与水準や高校の求人時期要件などがハードルとなり実施できなかった。

長く働き続けられるしくみづくりについては給与面での改訂等で一部改善を行ったが充分なものではなく、継続した検討が必要と考えている。そのほか、今年度は国による「働き方改革」の指針も出されたことから「残業」や「有給休暇」について法人としての視点を定めながら対応を図った。

その他、人材育成では「主任研修」を継続的に実施した。

4. 地域における関係機関との連携

事業所ごとに、授産や行事を通じて拠点地域の関係団体・町内会・住民等との交流や企業との連携、行政・医療・保健・福祉団体との連携をすすめてきた。そのほか、各種団体への役員や委員の派遣、講師等の派遣などあらゆる場面において協力関係を保つ取り組みを行うとともに、行政の位置づける「障害者計画」に沿って、協議会への参加を図り、地域全体の体制整備に尽力してきた。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

新社会福祉法人制度となって2年が経過した。この間、制度に基づく算定を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行ってきた。他の株式会社や特定非営利法人の運営による福祉サービス事業所にはない連携や地域交流を図り、給付には乗らない活動を継続した。

その他、年度後期において地域全体の課題となっている障害者や高齢者等が差別的待遇などで住まいを確保できない状況を改善することを目的とした「地域貢献」の視点による居住支援体制の整備に向けた検討を行い、和歌山県から「居住支援法人」としての指定を受けることとなった。

6. 法人新年会の取り組み

2年前の20周年記念行事から引き続き、実行委員会形式による新年会をビッグU多目的室において開催した。法人全体が一同に集う唯一の機会であり、各事業所間の交流を図ることができ、今年度も300人近い参加があった。

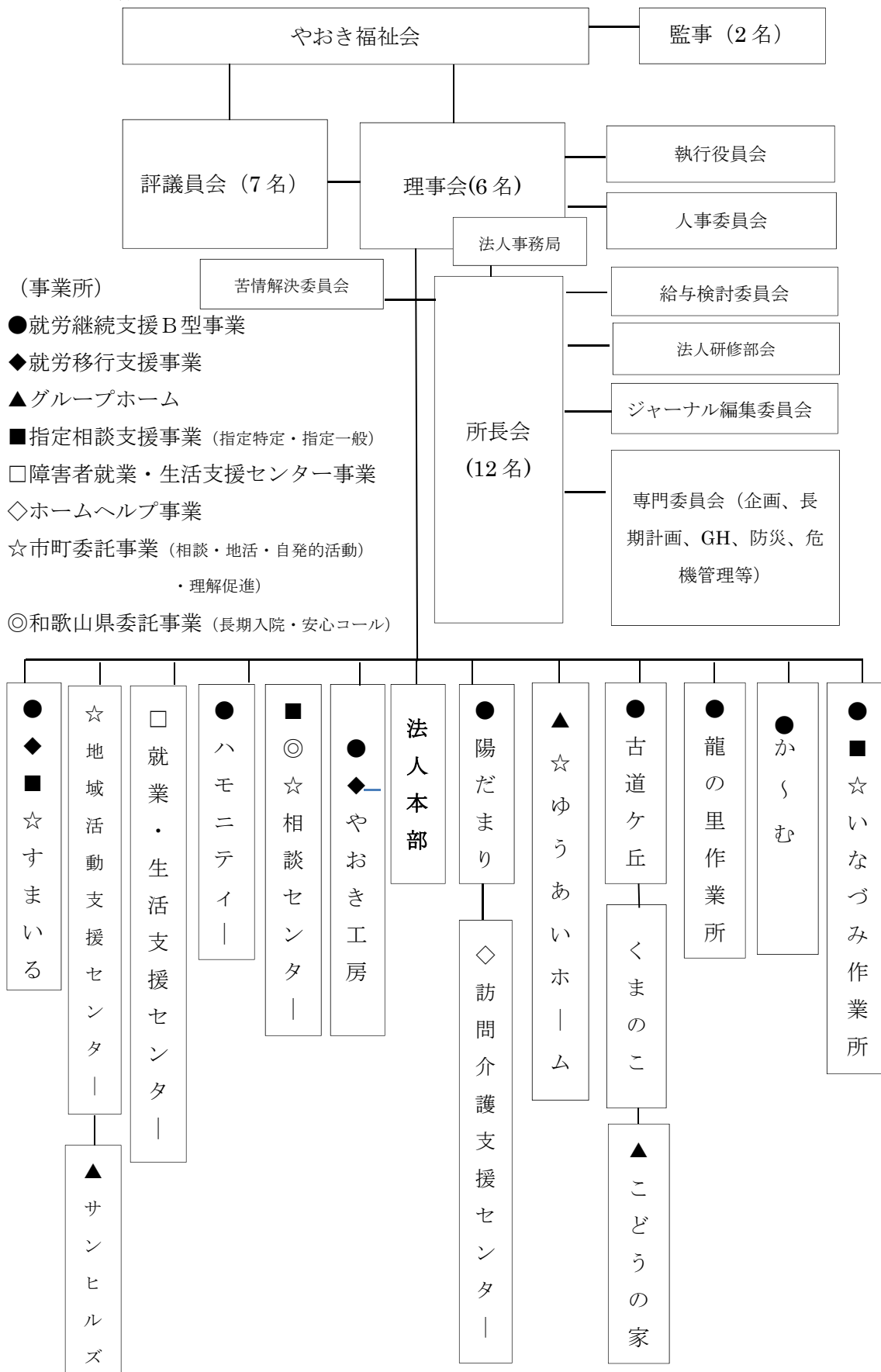
7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	02日 辞令交付式・10年勤続表彰式 10日 執行役員会、法人事務局会議 11日 上富田新町長挨拶 16日 所長会議 24日 執行役員会	17日 苦情相談委員会
5月	01日 法人事務局会議 08日 執行役員会 18日 理事長事業所訪問 21日 所長会議、ヒアリング会議 22日 執行役員会 23日 人事委員会 26日 理事会	11日 新人職員研修1 18日 新人職員研修2 18日 主任研修(労務) 25日 新人職員研修
6月	04日 人事委員会 05日 法人事務局会議 12日 執行役員会 16日 評議員会 18日 所長会議 26日 執行役員会	05日 ジャーナル会議 08日 やおきジャーナル79号発行 16日 主任研修(社会福祉の志し) 19日 苦情相談委員会 20日 ボランティア事業委員会 26日 後援会総会
7月	03日 法人事務局会議	

	11日 寄付贈呈式 23日 所長会議 24日 執行役員会	18日 ボランティア事業委員会 20日 主任研修（財務）
8月	07日 執行役員会 法人事務局会議 12日 人材バンクへの参加 20日 所長会議 28日 執行役員会	09日 法人企画部会 21日 苦情相談委員会 24日 主任研修（事業所監査） 28日 ボランティア事業委員会
9月	11日 執行役員会 13日 すさみ町への要望 18日 所長会議 25日 執行役員会	06日 法人企画部会 08日 やおきジャーナル 80号発行 13日 ジャーナル会議 14日 ボランティア事業委員会
10月	02日 法人事務局会議 04日 県監査（本部） 09日 執行役員会 15日 所長会議 23日 執行役員会 人事委員会	09日 ボランティア事業委員会 10日 福祉映画上映会 12日 後援会チャリティーゴルフ 16日 苦情相談委員会 19日 主任研修（リーダーシップと フォロワーシップ） 20日 法人企画部会 30日 ボランティア事業委員会
11月	06日 法人事務局会議 13日 執行役員会 15日 所長ヒアリング 16日 所長ヒアリング 17日 理事会 19日 所長会議 27日 執行役員会	10日 福祉映画上映会 13日 ボランティア事業委員会 22日 やおき大運動会 26日 ボランティア事業委員会
12月	04日 法人事務局会議 09日 正職員任用試験 16日 主任職員任用試験 17日 みなべ町への要望 所長会議 25日 執行役員会 26日 人事委員会	06日 居住支援法人研修会に参加 10日 ボランティア事業委員会 11日 ジャーナル会議 11日 やおきジャーナル 81号発行 14日 主任研修（やおきの成り立ち と目ざすもの） 15日 高校生交流事業 16日 苦情相談委員会 25日 ボランティア事業委員会

		25日 法人企画部会
1月	08日 執行役員会 法人事務局会議 09日 人事委員会 15日 人事委員会 21日 所長会議 22日 執行役員会 23日 人事委員会 25日 すさみ町への要望	08日 労基説明会 11日 法人企画部会 14日 ボランティア事業委員会 18日 法人新年会 22日 ボランティア事業委員会 25日 主任研修（ワークショップ）
2月	05日 法人事務局会議 06日 人事委員会 10日 人材バンク説明会 12日 執行役員会 18日 所長会議 22日 理事会 26日 執行役員会 28日 人事委員会	07日 法人企画部会 14日 ボランティア事業委員会 13日 有田川町見学来所 15日 主任研修（法令制度の流れ） 19日 苦情相談委員会 21日 映画「夜明け前」上映会 26日 将棋交流会
3月	05日 法人事務局会議 12日 執行役員会 16日 理事会 16日 評議員会（臨時） 18日 所長会議 26日 執行役員会	01日 安全・防災推進員研修 04日 やおきジャーナル 82号発行 05日 法人事業計画説明会 07日 法人企画部会 08日 虐待防止 伝達研修 12日 ジャーナル会議 15日 主任研修（制度変更） 14日 ボランティア事業委員会

8. 法人組織



指定相談支援事業 「紀南障害者地域生活支援センター」

1. 運営概況

和歌山県から受託していた「和歌山県精神障害者夜間・休日あんしんコール事業」が 29 年度末で終了し、30 年度は、サービス等利用計画作成を行う「指定特定相談支援」、入院患者の退院を支援する地域移行支援サービス、地域移行後の定着を支援する地域定着支援サービスである「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の委託を受けた「委託相談支援」及び白浜町の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」及び和歌山県から委託を受けた「長期入院精神障害者地域移行促進事業」の 6 種 8 事業を実施した。

また、市町委託相談支援事業の関係で「地域自立支援協議会」への参加、協議事業等を通じ、地域の支援体制づくりに関わってきたが、相談支援制度の改定に対応しながら、脆弱な予算措置の中、様々な連携会議や協議・研修の場などに参加していくことに体制的な問題が残った。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

福祉サービスの利用希望者への「サービス等利用計画の作成」に関する相談支援を実施した。本相談支援は 30 年度から多様な加算等の制度改定があり、年度当初に、他職種での研修を実施するとともに法人内においては「制度改定説明会」を実施し、制度の変更に対応した。また、法人の事業所が兼務で行っていた計画相談を、1 部、相談センターに移行するなど法人内の整理を行った。

制度改定内容については、改定内容を踏まえ、各種加算を取得できるよう体制整備と周知を図ったが、現状にそぐわない事務量が大きく求められることが明確となったため、可能な範囲での対応に留めることとした。

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」については、病院からの要請もなく、制度の利用はなかった。ただし、制度利用は行なわずに独自の支援により、退院前後の支援を行った。

退院後の安定、又は、地域生活の安定を図る「地域定着支援」については、前年度で和歌山県精神障害者夜間・休日あんしんコール事業」がなくなることで不安のあった利用者のうち、希望があった人を対象として、月次の見守りと緊急時の支援を行った。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

名 称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」
所在地 田辺市民総合センター2階
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
派 遣 やおきより専任相談支援専門員1名（常勤換算1名）
実績等 年間相談支援件数 9,309件（4法人合計）
（白浜町）

名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
所在地 白浜町1279-9
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会
派 遣 やおきより兼務相談員3名（常勤換算0.8名）デイサロン補助（週1日6H）
実績等 年間相談支援件数 5,272件（2法人計）

（相談センター事務所）

所在地 田辺市下三栖1475-201（本部敷地）
サテライト 田辺市新庄町2,744-58 セレナヴィータビル2階B号
指定事務所である相談センターにおいては、ゆめふる・ぼらんち以外の相談として、
3,482件の支援を行った。うち、圏域外利用者は246件であった。

④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県から委託を受け、精神科病院で長期入院となっている「退院したいという意思が芽生えていない人」を対象として退院意欲の喚起を目的として支援を行った。対象者は前年度からの継続で2名であった。事業による関わりを開始して以降、本人の状態や意欲に大幅な本人や変化が見られたが退院という結果には至らなかった。

（支援回数72回）

そのほか、職種間の連携会議を月1回開催し、チーム支援の円滑化を図るとともに体制整備として事業の効果を検証する冊子を作成、実践報告会を開催するとともに関係機関に配布した。

⑤ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週1回のデイサロンを提供するとともに、月1回、調理体験・茶話会・アウトドア（季節行事、ドライブ等）等のプログラム活動を行った。年々、利用者は増加しており支援体制の確保に難しさを感じられるようになってきた。利用者数は、実人数12名、月平均利用者数は27名であった。

⑥ 白浜町啓発等理解促進事業

年2回の研修を実施するとともに町との懇談会や町内のフェスティバルに参加した。
研修（4月：相談支援の改定、8月：ぼらんち課題に関する懇談会、10月：しら・はぐフェスティバルへの参加、12月：災害時研修）

3. 地域ネットワーク活動

①西牟婁圏域自立支援協議会活動

30年度においても地域移行部会精神部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題について、年金制度理解研修、医療センターでの勉強会、アルコール依存視察研修に加え長期入院精神障害者の支援実践について報告冊子を作成し、実践報告会を開催した。

②田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4法人による「ゆめふる」の協働運営について、毎月、協議を行うとともに、市町行政のすすめる「地域生活支援拠点」整備に向けて連携を図った。

③医療・保健連携会議の開催

地域の精神科医療等の課題に関し、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を開催した。（計22回開催）そのほか、県の主幹する連絡会に年3回参加し、状況報告と課題提言を行った。

④白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

町とぼらんちの連携会議に加え、ぼらんちが主体となって町内福祉サービス事業所の連携を目的として「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。30年度においては防災システムの検討を中心に行った。

4. その他の活動

① 計画相談改定を踏まえ、法人内外において研修を実施した。また、支援の向上を求めて事業所内での事例検討や法人研修、他機関の実施する研修等に参加した。

② 大学及び専門学校から「精神保健福祉士」取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施した。

③ 行政及び諸団体に委員等を派遣し、支援協力等を行った。

④ わされん対県懇談委員会精神グループの事務局を担い精神障害に係る課題等の整理を行ったが体験要望には至らなかった。精神グループにおいて県内精神関連職種との交流会を開催した。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（神社仏閣めぐり） 理解促進研修（計画相談）
5月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（カラオケ）
6月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（お菓子づくり）

7月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（喫茶） 理解促進研修（共生社会の実現）
8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（ドルフィンウォッチン グ）、理解促進研修（ぼらんち課題）
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（バーベキュー） 体制整備事業（年金制度）
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（喫茶） 理解促進事業（白浜フェスティバル）
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（ドライブ） 体制整備事業（実践報告会）
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（クリスマス会） 理解促進研修（災害時研修）
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（温泉）
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（鍋パーティー）
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（イチゴ狩り）

6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（7人） やおき派遣数（1人）	ぼらんち全体（2.6人） やおき派遣数（0.8人）	1.2人
相談支援件数計	9,309件（4法人）	5,272件（2法人）	※6,774件（内、3,292件は左 記に含む）

相談センター障害別相談件数

精神障害	知的障害	身体障害	発達障害	高次脳	難病	不明
5,104	791	330	364	165	19	1

相談センター年代別相談件数

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
136人	71	803	841	1,756	2,181	893	20	

7. 県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院事業 (2人)	7	6	6	5	8	5	7	6	4	6	6	6	72

【就労移行支援・就労継続支援B型事業所】

やおき工房

1. 運営概況

今年度は就労移行支援事業（定員 8 名）と就労継続支援事業 B 型（定員 24 名）の 2 事業の多機能型として運営を行った。

就労移行では、今年度より定員に対しての就労定着率（就職後 6 ヶ月）により本体報酬が変動する仕組みとなったため、利用実態に合わせた 8 名定員に変更することとした。年度中の就職者は 1 名、新年度に就職が決まった者が 1 名という状況であった。2 年間で就職が決まらず利用延長した者が 4 名おり新規利用者も増えたことから年度末には 13 名の利用者数となった。いわゆる直 B 問題による利用者（就労アセスメント）も 2 名いた。新規実習場所の確保も検討したが、現在の体制を維持し現訓練内容の充実に取り組んだ。

就労継続 B 型では、授産（作業）としては、工賃向上に向けて施設外就労の単価交渉を行うとともに、年度途中より製菓事業に取り組み南紀ファクトリーLab のきくらげチュウールの OEM やマドレーヌ（みかん・レモン）・キャラメルポップコーンの自主製品の開発・販売促進に取り組んだ。また、りさいくる手作りメモ帳は共同受注を通じて年間 600 冊弱の受注を頂いた。また、やおき後援会と協力し工賃向上と就業体験を目的にして宮惣ケミカルの施設外就労にも取り組んだ。

利用者状況は、退所者 3 名の内 2 名は精神科長期入院と糖尿病による血糖値のコントロールが難しく、救護施設に入所となったための退所である。残りの 1 名は A 型作業所に移った。新規利用者は 3 名である。精神状態の不調・悪化や健康状態の悪化による入院が 4 名、交通事故による長期休職も 1 名あった。精神的ケアや健康管理支援の重要性を強く感じる年度となった。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行

- ・延べ 15 名が利用し、5 月に 1 名が就職した。（介護老人保健施設 清掃員）また、8 月より半年以上の実習を重ね、翌年度 4 月に就職が決まった者が 1 名であった。（居宅介護事業所 訪問介護員）他に、雇用可能性のある職場実習に入った者が 2 名。内 1 名は実習終了後、その企業への就職を希望せず。（レジャー施設 洗い場）もう 1 名は職場実習継続中である。（梅加工会社 製造）仕事内容や距離・既就労者との相性の問題等マッチングの難しさも出てきている。2 年間の利用期間に就職に至らず、利用期間を延長した者は 4 名であった。直 B 問題（就労経験のない者は直接 B 型を利用できない）によ

り就労移行を利用し就労アセスメントを経て B 型に移った者が 2 名であった。(古道ヶ丘、やおき工房[B 型])

- ・給食事業では、年間延べ 17,139 食を提供した。給食提供日数は 221 日で、1 日当たりは平均 77.6 食であった。厨房作業が移行利用者だけでは回らないため、今年度も B 型利用者が 6 名かかわり運営した。
- ・今年度も空の日フェスタのバザーを活用して、利用者中心で出店物や予算・準備・実施に至るバザー運営が行えるようにサポートした。収益の 4 万円弱の使い道についても話し合い、でんで焼き肉パーティーを開催した。一つの企画の実現に向けて話し合い・協力していく過程でコミュニケーションや協力のあり方を学べる経験となっている。
- ・交通事故により長期休所・休職に至る者や原付免許の取りたての者・自転車通所に不慣れな者が増えてきたため、田辺警察の協力を得て『交通安全講習』(6/6)を実施した。また、外部研修『就職活動支援セミナー』(9/11 和歌山県経営者協会)や『JST (ジョブスキルトレーニング)』(3/13 就業センター)に参加した。『語りべ研修』(3/2 西牟婁自立支援協議会 就労支援部会)では、就職者 1 名が語りべとして発表を行った。就職とその定着を目指す者にとっての具体的なアドバイスもあり良い刺激となった。

就労継続 B 型

- ・施設外就労として「上富田スポーツセンター トイレ清掃」「パルコ 21 ゴルフボール補充作業」「紀伊民報 帯封作業」「宮惣ケミカル ペットボトル分別作業」に取り組んだ。単価交渉の結果全て一人時給 500 円で取り組めることとなった。工賃向上につながっている以外にも企業の雰囲気を感じられ、お客様に対する接客等も必要となり、利用者にとって良い刺激となっている。
- ・製菓事業の許可を受け、南紀ファクトリーLab きくらげチェイールの OEM や上富田町岡の農園に協力頂き、地元で獲れた果物をジャムにし、マドレーヌを商品化した。また、バザーでしか販売していなかったキャラメルポップコーンも商品化した。法人内 3 ケ所の売店の他、ビッグ U やよりみちサロンいおり・V ショップ下三栖店で販売している。和歌山県セルフセンターの製菓・製パンプロジェクト会議に参加し、品質向上や今後対応が必要となる食品表示・HACCP (衛生管理) についての研修を重ねている。製菓の作業を希望する利用者も徐々に増えてきており、現在利用者 5 名が意欲的に取り組んでいる。
- ・りさいくる手作りメモ帳は、和歌山県 PR キャラクター「きいちゃん」や田辺市 PR キャラクター「たなべえ」の使用許可を受け、表紙やパッケージを一新。共同受注を通じて、障害児者父母の会の親子のつどい交流会 (20 冊) や田辺市自殺予防週間街頭啓発 (300 冊)、和歌山県障害者週間街頭啓発 (200 冊)、和歌山県火災予防啓発 (50 冊) の啓発物品として活用頂いた。その他、和歌山県セルフセンターの開発商品「Eco ピカセスキ」の洗浄スプレーの販売も行っているが売れ行きは伸び悩んでいる。

- ・地域バザーにも出店した。ヤーヤーまつり（田辺市）・おもいっきり福祉まつり（田辺市）、映画上映会（田辺市）・ICT CONVENTION フェアバザー（田辺市）・ふれあい文化祭（田辺市）でのバザー出店を行った。休日や夜間でも積極的に参加する利用者もあり、調理や売り子、会計等の役割分担も年を追うごとにスムーズになってきた。施設では見せない生き生きとした表情を見せる利用者もいる。
- ・三栖地区ならではの季節作業として梅拾い作業に今年も取り組んだ。体力的にも過酷で参加する利用者は年々減ってきているものの、利用者・職員合わせて13人がかかわった。また、はまゆう支援学校3年生も6人が挑戦した。

②生活支援活動

- ・自治会活動を支援し、自治会役員を中心にレクリエーション等の企画の立案・実施・会計等が行えるようサポートした。
- ・土曜開所（11回）を実施し、余暇支援に努めた。
- ・健康診断を年1回行い、精密検査等が必要な利用者については、家族等と連携しながら受診同行を行う等、健康管理の支援に努めた。肥満や糖尿病等で健康管理が必要な者が増えてきている。1名は救護施設への入所へと至っている。高齢により誤嚥性肺炎を起こしやすい利用者もあり、健康管理の支援は重要となってきた。
- ・防災訓練『避難訓練及び火災予防についての講義』（11/20）、『避難訓練及び出張！減災教室』（2/20）を実施し、火災予防や地震体験車や地震・津波についての講習会を通じて防災についての学習を深めた。
- ・公共交通機関のアクセスが悪いため、自力通所が困難な利用者については送迎を実施した。午前4便、昼2便、15時2便、16時2便の送迎体制となってきた。移行利用者で送迎を利用する者も増えてきた。今年度は3名が送迎を利用している。今後の職場実習・就職を考えた場合、原付や自転車・公共交通機関等の確保が課題であり、個別の支援が必要となってくる。
- ・第15回精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会（11/14 和歌山ビッグウェーブ）に向けて、やおき工房から3名が参加し、6月より月2回程度の練習を重ねた。練習の結果、大会では初めて準優勝という成績を収めた。

③個別支援関係

- ・利用者の希望やニーズ把握に努め、個別支援計画を作成し支援に当たった。定期的に支援の見直しを行った。必要に応じて家庭訪問を実施し、家族の意見の聴取にも努めた。
- ・精神的に不調を来し休所しがちの利用者等には受診同行や服薬支援を行った。（5名）
- ・3名の原付免許の取得支援（学習支援他）を行なった。2名についてはスムーズに合格したが、1名については十数回の試験でようやく取得することができた。
- ・A型事業所の利用を希望する利用者には、見学の同行や利用の調整を行った。（アン・

スーリール・ド・サクラ 1名)

- ・紀南こころの医療センターの精神科訪問看護を利用している利用者 4名については、年1回程度、訪問看護師と情報交換を行った。
- ・介護保険サービスの併用利用者については、地域包括支援センターのケアマネジャーやデイサービス事業所・居宅介護事業所等との連携に努めた。
- ・家族懇談会(3/9)を開催し、8名の家族が参加し懇談した。家族としての意見を作業所運営に生かす良い機会となった。

3. 地域交流・地域貢献活動

- ・バザー活動(5ヶ所)を行い、地域交流・地域啓発に努めた。
- ・他団体や地域の幼稚園・三栖地区の子供会等にバザー物品の貸し出しを行い有効活用して頂いた。

4. その他の活動

- ・はまゆう支援学校高等部3年生10名を就業体験で受け入れた。
- ・紀南看護専門学校3年生30名を精神科看護実習で受け入れた。
- ・西牟婁自立支援協議会 就労支援部会に加盟し、地域バザーへの協力や研修等への参加を行った。
- ・和歌山県社会就労センター協議会及び和歌山県セルフセンターに加盟し、職員研修や製菓・製パンプロジェクト会議・セスキマイブランド化プロジェクト会議等に参加して授産事業の活性化に努めた。

5. 行事報告

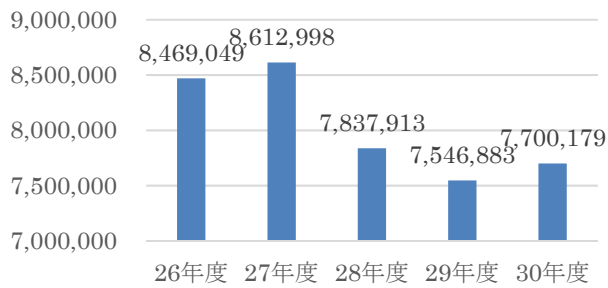
月	行事等	月	行事等
4月	お花見(白浜町平草原) 紀南看護学校看護実習5名	10月	一泊旅行(京都府・奈良県) 紀南看護学校看護実習10名
5月	スポレク(市ノ瀬体育館) エネルギーランド(白浜町) 紀南看護学校看護実習5名	11月	精神障害者バレーボール大会(和歌山市) 映画の集い(ビッグU) 映画鑑賞(ジストシネマ田辺) やおき運動会(田辺スポーツパーク) 防災訓練『火災予防教室』
6月	イオンモールレク(和歌山市) はまゆう支援学校3年生就業体験8名 紀南看護学校看護実習5名	12月	ICT CONVENTION フェアバザー(ハナヨアリーナ) 忘年会 ボウリング&温泉・食事 (ジストボウル田辺・かんぽの宿)

7月	はまゆう支援学校3年生施設利用体験1名	1月	初詣&喫茶(闘鶏神社・桜香) 映画鑑賞会(ジストシネマ田辺) やおき福社会新年会(ビッグU) はまゆう支援学校3年生施設利用体験1名
8月	ヤーヤー祭りバザー(田辺市) BBQ・流しそうめん(かしのき)	2月	観梅(みなべ梅林) 映画鑑賞会(やおき工房) ふれあい文化祭バザー(田辺市) 将棋交流会(田辺市民総合センター) 健康診断(白浜はまゆう病院)
9月	空の日フェスタバザー(白浜町) 紀南看護学校看護実習5名	3月	家族懇談会 年度末食事会(ホテルシーモア) 防災訓練『出張!減災教室』

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	30年4月	31年3月	30年4月	31年3月
定員	8人	8人	24人	24人
実利用者数	9人	13人	29人	29人
1日平均利用者数	8.7人	8.61人	19.75人	21.42人
職員常勤換算配置数 ※重複掲載あり	2.9人	2.9人	6.8人	6.8人
年間稼働日数	総稼働日数 259日	休日開所日数 19日	総稼働日数 250日	休日開所日数 11日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	給食事業	5,939,320	受託作業	2,104,174
	職場実習	960,971	施設外就労	1,775,325
	受託作業	441,958	販売事業	831,129
	施設外就労	217,100	給食事業	168,630
	販売事業	140,830		
	計	7,700,179	計	4,879,258
工賃実績(一人当たり)	当初目標 なし	実績 25,196円 (時給265円)	当初目標 12,000円	実績 13,294円 (時給235円)

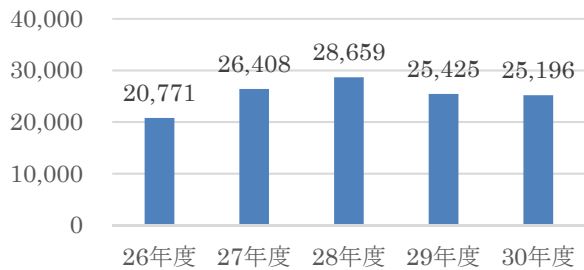
過去5年間の授産売上の推移（移行）



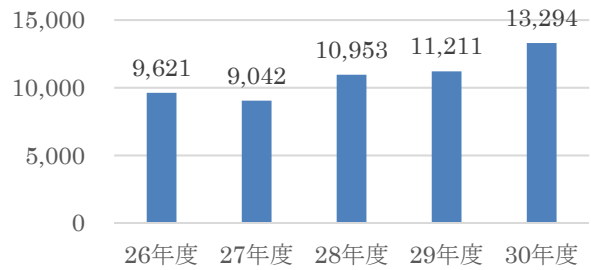
過去5年間の授産売上の推移（B型）



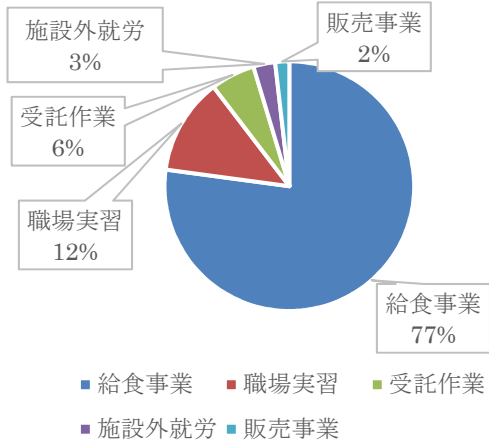
過去5年間の平均工賃実績の推移（移行）



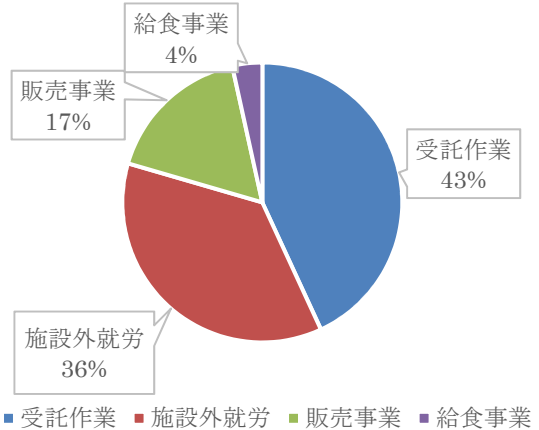
過去5年間の平均工賃実績の推移（B型）



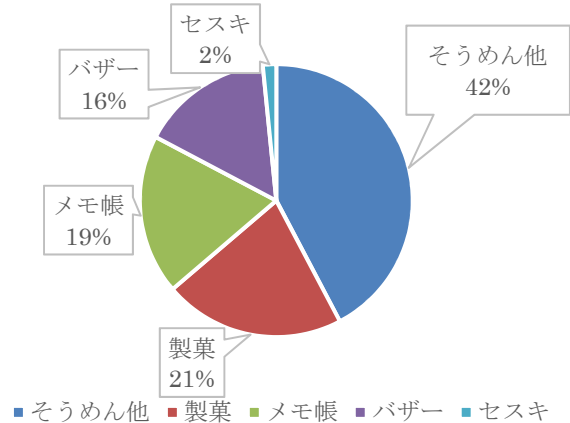
授産売上内訳（移行）



授産売上内訳（B型）



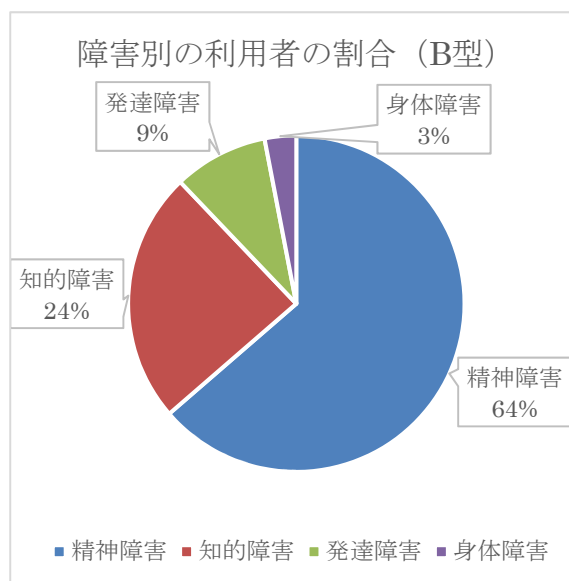
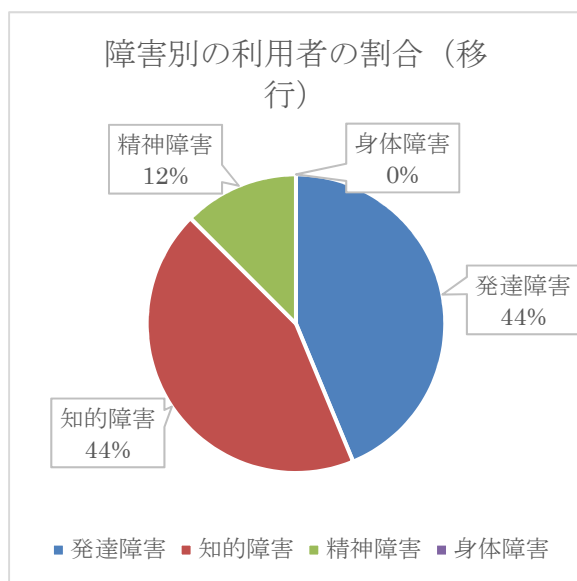
販売事業内訳（B型）



7. 利用者の年齢層（H31年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	12	2	6	5	3	29
女	0	3	3	3	2	2	13
計	1	15	5	9	7	5	42

(平均年齢：移行 27.31才、B型 45.72才、総合 40.02才)



【介護サービス包括型共同生活援助】

ゆうあいホーム

1. 運営概況

ゆうあいホームを主たる事業所とした、グループホームのエリア指定による一体的な運営を行なった。ゆうあいホームに充填的に職員を配置しつつも、それぞれのホームに職員が巡回する支援体制とした。

利用者の推移は、ゆうあいホームでは退所者が2名、入所者が1名で、すてっぷはうすについては、利用相談から見学対応を行なう機会もあったが、新規利用者の受入れには至らなかった。南紀の台ホーム、ほわいとホームにおいては、利用者の入退所は無かった。定員42名に対して40名が利用している状況となっている。

年度内に入院治療が必要になった利用者は5名（精神科3名・内科2名）いたが、長期入院には至らず、退院後に地域生活に戻ることができた。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・平日の給食提供を継続して実施した。調理業務は、ゆうあいホーム、ほわいとホームで行ない、すてっぷはうすはゆうあいホームで喫食、南紀の台ホームは、ゆうあいホームで調理した物を配送して提供した。
- ・休日については、買い物支援や仕出し弁当の発注等により、それぞれのホームの実情に合わせて、利用者の喫食に関する支援を行なった。
- ・ほわいとホームでは月1回、調理実習を継続して実施した。
- ・歩行運動の機会を持つと共に、必要な利用者には継続的な体重測定を実施し、体調維持、増進のための取り組みを行なった。
- ・血圧測定や検温、体重測定等を継続的に実施し、利用者の健康状態の把握に努めると共に、必要に応じて医療機関の診察等につなげる支援を行なった。
- ・居室整理や入浴の習慣化に対する支援を、継続して行い衛生面の向上に努めた。

②個別支援関係

- ・定期的に面談を実施し、アセスメントに基づく個別支援計画の作成を行ない、半期毎にモニタリングを実施した。
- ・支援が必要な利用者に対し、金銭管理や服薬管理等を行なった。
- ・血圧測定や水分接種量等の見守り確認を、医療機関の指示に沿う形で実施した。
- ・必要に応じて受診同行等、医療機関との連携により支援した。

3. 地域交流活動

- ・町内会の清掃活動に積極的に参加し、町内美化に協力した。
- ・他事業所と協力して、精神保健福祉センター主催のソフトバレー大会に参加した。
- ・地域行事ふれあい文化祭に担当者を派遣し、その実施に協力した。

4. その他の活動

- ・月1回の定例自治会を開催。自治会活動として行なう誕生日会やレクリエーション活動の企画立案、実施を支援した。
- ・保護者懇談会を実施し、活動報告を行なうと共に、意見交換の機会を持った。
- ・地域移行支援事業の委託を受け、入院中の当事者を体験利用として受け入れ、退院に向けての取り組みを行なった。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	こいのぼり祭り	10月	やおき運動会
5月	釣りレク	11月	防災訓練
6月	防災訓練	12月	クリスマス会
7月	茶話会、釣りレク	1月	初詣、保護者懇談会
8月	外食（焼肉）	2月	ふれあい文化祭
9月	空の日フェスタ	3月	年度末お食事会

その他、各ホームにおいて、誕生日会や調理実習等を実施した

6. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム	
定員	平成30年4月 42人	平成31年3月 42人
実利用者数	平成30年4月 41人	平成31年3月 40人
職員常勤換算配置数	平成30年4月 13.3人	平成31年3月 13.2人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 2人

出身市町村内訳	田辺市	16人
	白浜町	3人
	上富田町	4人
	すさみ町	2人
	みなべ町	4人
	和歌山市	1人
	御坊市	1人
	美浜町	1人
	串本町	1人
	那智勝浦町	1人
	古座川町	1人
	新宮市	4人
	三重県紀宝町	1人

7. 利用者の年齢層（平成31年3月末）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男		3人	5人	7人	4人	3人	2人	24人
女		1人	1人	6人	3人	4人	1人	16人
計		4人	6人	13人	7人	7人	3人	40人

平均年齢：48.4歳

8. ショートステイ事業、日中一時支援事業

- ・ショートステイ利用者は11名で、内4名が新規での受入れだった。延べ利用日数は179日。
- ・短期入所の支給決定を受けていない方の体験入所の受け入れも行なった。体験入所の利用者は8名で、内5名が新規での利用だった。延べ利用日数は63日。
- ・ショートステイ、体験入所を合わせてのショートステイ室の稼働状況は開所日数に対して7割程度だった。
- ・日中一時支援事業は、白浜町より2名の方が利用された。延べ利用日数は88日だった。田辺市、上富田町在住の方からの利用相談は無かった。

9. 田辺市自発的活動支援事業

- ・法人各事業所より担当者を募り、実行委員会を開催して計画立案し、以下の事業を実施した。
- ・実施事業は、高校生と当事者との交流会（参加者82名）、各事業所の将棋愛好家による交流会（23名）、障害者福祉に関連した映画上映会（99名）、親子サークル「カンガとルー」活動支援（計10回、延べ178名）の4事業を実施した。

【就労継続支援B型事業所】

陽だまり

1. 運営概況

30年度は2名が入所したが、その2名が年度内に退所し、更に3名が退所したので年度末時点の登録人数は25名となった。通所状況においては個々の通所率が上がり月の平均利用率は21.4名となり、前年度と比較すると0.5名増加した。また、授産面では、これまでの作業（袋入れ、部品組み立て、売店業務、農園等）に加えて、新たに清掃作業を取り入れ、メンバーが自身の状態に合わせ関わられる作業を増やした。農園においても、これまではレタスなどの葉物やキュウリ、ナスなど10種類以上の作物に挑戦しては、様々な虫の襲来で収穫量が上がらない経験をしたので、30年度は虫や悪天候にでも非常に強いオクラとシシトウに絞って、SNS上で募ったサポーター（食育に興味を持っている友人、知人）を中心に販売を行った。また、メンバーの念願であったドッグセラピーを12月から開始し、当初は2名の利用者が「保護犬と関わる事は苦手」との意見もあり、その点については十分配慮してきたが、この数カ月の取り組みや触れ合いの中で、保護犬が苦手であった2名の利用者からも「犬が苦手でなくなった」との意見もあり、他のメンバーからは「ドッグセラピーが始まった事で、幻聴で辛い時に楽になった」「通所する事が更に楽しくなった」との意見もあった。

最後に、現在の西牟婁圏域内を鑑みても、従来のB型事業所以外にA型事業所の躍進が顕著であり、これまでに経験した事のない「競争」が発生している。場合によっては一年以上の見学者や新規の利用者がいない状況となっており、運営が非常に厳しくなっている。そこで陽だまりとしての30年度は、開所当初から一貫している「ゆっくり、のんびり安心出来る場所」としての方針を継続すると共に、他の事業所との違いを出す為に、土に触れる農園作りやドッグセラピーを取り入れて、利用者の心身ケアを中心に行った結果、年間利用率増に繋がったと考えられる。

2. 事業報告

①就労支援活動

陽だまりの在り方として、就労継続B型事業所ではあるが、他の事業所と一線を画する為に「ゆっくりと安心出来る場所」を基本方針としており、現在の登録メンバーの大半が長期入院や長期引きこもり状態からの事業所利用なので、他の事業所と比較しても就労希望のメンバーは非常に少ない。但し30年度は1名のメンバーから就労希望についての相談があり、そのメンバーを就業センターに繋ぎ事業所登録を行った。

②生活支援活動

メンバーの中には、特定の人に対してあいさつをしないなど露骨に態度に出す事もあり、

その事が原因でトラブルになる事もあったので、個別面談や自治会の中で模擬実演等を行い、メンバーに意識改革に繋がるよう支援を行った。

③個別支援関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・食育（無農薬栽培等）に興味の有る地域の方を農園に招き、実際にメンバーが働いている様子を見たり、茶話会を通じて交流を図った。
- ・紀陽銀行みなべ支店が開催しているグランドゴルフ大会に参加して、地域の方や事業所間交流を行った。

4. その他の活動

- ・毎月土曜日開所を実施して、メンバー参加型の土曜日食堂（調理実習）を通して、休みで生活のリズムが崩れる事がないように見守り支援を行った。
- ・紀南看護学校の学生や熊野高校看護科の学生を実習生として受け入れ、メンバーとの交流を行った。
- ・陽だまりではソフトバレーボール、釣りクラブがあり各クラブが成果を出せるように日々切磋琢磨しており、30年度はビッグホールで行われた大会に参加して、やおき合同チーム（ゆうあいホーム、やおき工房、ハモニティー、陽だまり）は準優勝した。
- ・釣りクラブは坊主がほとんどなく、ガシラや小アジなどが釣れており、徐々に入部希望者が増えてきている。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見(平草原)、DVD鑑賞、土曜日食堂	
5月	パビリオンフェスティバル、釣り、スポレク、土曜日食堂	
6月	スポレク、釣り、土曜日食堂	
7月	納涼会(素麺・寿司・かき氷)、釣り、土曜日食堂	
8月	外食(和食)、ドライブ、土曜日食堂	
9月	誕生日会、釣り、土曜日食堂	
10月	BBQ、弁慶祭、ソフトバレー大会、土曜日食堂	
11月	グランドゴルフ大会、旅行、土曜日食堂	

12月	クリスマス会、忘年会、土曜日食堂	
1月	初詣&外食、法人新年会、土曜日食堂	
2月	みなべ梅林観梅、イチゴ狩り、土曜日食堂	
3月	忘年会、ちゃんこ鍋パーティ、土曜日食堂	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	定員	30年4月 20人
実利用者数	30年4月 30人	31年3月 25人
1日平均利用者数	30年4月 20.9人	31年3月 21.4人
職員常勤換算配置数	30年4月 3.6人	31年3月 3.6人
年間稼働日数	総稼働日数 253日	休日開所日数 16日
	科目	収入(円)
授産科目及び授産収入	商品売上	258,220円
	農園売上	28,750円
	受託作業	2,169,456円
	雑収入	191,710円
	計 2,648,136円	
工賃実績(月一人当たり)	当初目標 6,000円	実績 7,587円

年代別表	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	1名	1名	4名	4名	3名	13名
女性	2名		5名	4名	1名	12名
計	3名	1名	9名	8名	4名	25名

【居宅介護事業所】

訪問介護支援センター

1. 運営概況

30年度は利用者数36名に対して、登録ヘルパー9名で事業を開始したが、年度当初にヘルパーの退職が続き、計4名のヘルパーが退職となった。また、2名のヘルパーが家族の介護や事故の影響で休職状態となった事で、36名の内、複数の利用者宅にヘルパーを派遣する事が出来なくなり、急遽17名の利用者には他の訪問介護事業所を紹介して、大きな混乱もなく短期間で転籍が完了した。但し、19名の利用者に対してもホームヘルプサービスの維持が困難であったので、訪問介護支援センターの主任である門野氏がヘルパーとして定期的に現場に入り、更に1名のヘルパーが新たに採用出来た事で、19名の利用者に対して安定してホームヘルプサービスを行った。

2. 事業報告

①身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

②家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

・

③通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥個別支援関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
	利用者数	30年4月 36人	31年3月 19人	自立支援 17人
登録ヘルパー数	30年4月 9人	31年3月 7人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	人 17人		
	休 止 中	人		
利用市町村内訳	田辺市	29人	田辺市	16人
	白浜町	5人	白浜町	3人
	みなべ町	2人	みなべ町	人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

【就労継続支援B型事業所】

ハモニティー

1. 運営概況

平成30年度ハモニティーは、定員20名、登録者25名でスタートする。1年間での新規利用者数は3名で、退所者数は5名であった。

① 性別・年代別(平成31年3月末日時点)

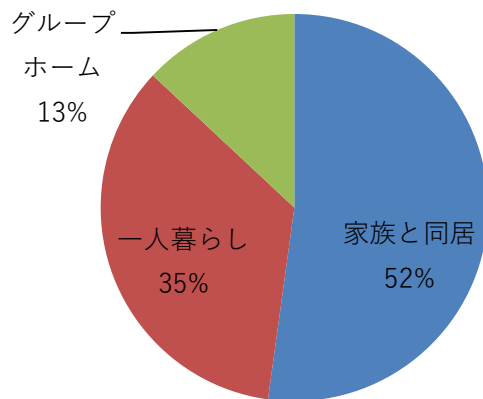
	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	合計
男	0	2	6	3	4	15名
女	0	2	2	1	3	8名
合計	0	4	8	4	7	23名

(平均年齢 51.2 歳)

② 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	19名
知的障害	4名
身体障害	0名

③ 居住形態



家族と同居	12名
一人暮らし	8名
グループホーム	3名

④ 利用実績(月別)

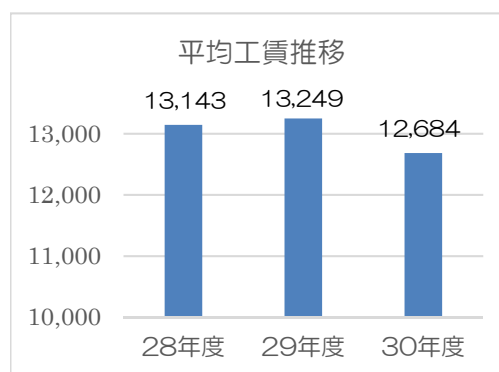
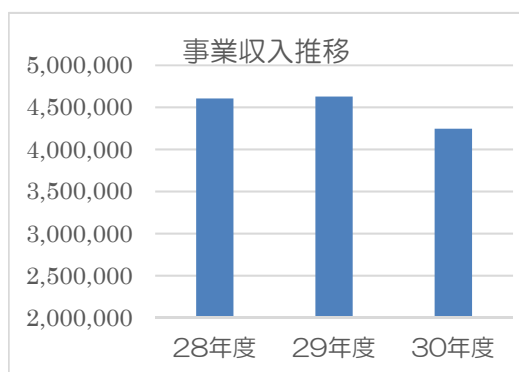
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	20.2	19.7	20.0	19.3	19.0	19.0	18.7	18.6	19.3	19.2	19.2	20.1
開所日数	20日	21日	21日	21日	19日	17日	22日	21日	19日	18日	20日	21日

(年間平均 人/月)

2. 事業報告

①就労支援活動

- ・ 自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
- ・ 受託作業(日用雑貨包装、電子部品セット、新聞帯封、売店、チラシ印刷)
- ・ 職場実習 ・野菜販売



②生活支援活動

65歳以上の介護サービスを利用されている利用者が増えてくるなかで、生活状況の確認や診察同行、転倒による緊急対応など個別な対応がこれまで以上に必要であり、ケアマネさんや介護事業所と連携を図り対応にあたるケースが増えてきた。

日常生活を送るうえで最低限必要な掃除や食器洗いについては、当番制において実施し、生活の場で実践できるよう取り組んできた。足腰が不自由な利用者については、職員がフォローしながら、すべての利用者に関われるよう日常生活訓練の位置づけとして継続してきた。

自治会活動においては、週1回の頻度で、レクリエーションや茶話会などを実施し利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。これまでなかった麻雀や将棋を取り入れることにより、これまでレクへの参加がなかった利用者も興味をもって楽しんでもらえる機会となり、昼休みの時間も楽しむようになってきた。また、体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも定期的に実施してきた。

③個別支援関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週1回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的に実施してきた。

新規利用希望者については、ゆめふるやこころの医療センターと連携しながら、見学や体験利用の受け入れをおこなってきた。

また、単身生活者が多い状況のなかで、日常生活の様子について把握に努めながら、衛生面や食生活についての助言、サービスについての情報提供、関係機関との連携をおこな

ってきた。介護保険サービスと併用利用されている利用者については、地域包括支援センターや訪問介護事業所と連携を図り、定期的なケア会議にも参加してきた。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてこられる。

4. その他の活動

非常災害に備えるための防災学習、訓練の実施。

家族懇談会を開催し、活動報告及び意見交換をおこなう。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	5	外食	和わ
	12	買い物	ユニクロ・パピシ
	19	釣り	文里湾
5	10	買い物	ユニクロ・パピシ
	17	釣り/将棋	文里湾
	31	ドライブ	とれとれ市場・シーモア
6	7	外食	あきつのガルテン
	14	買い物	パピシ・ユニクロ
	21	ボードゲーム	将棋、オセロ、人生ゲーム
7	13	釣り、カラオケ	文里湾
	20	ドライブ	近露方面
	26	夏季賞与支給	
8	2	流しそうめん、かき氷	ハモニティー駐車場
	10	BBQ	古道ヶ丘
9	6	外食	あきつのガルテン
	20	ブドウ狩り	紀南観光ぶどう園
10	5	1日レク	アドベンチャーワールド
	12	チャリティーゴルフコンペ	後援会
	16	安全運転管理者講習	
	18	グラウンドゴルフ	上富田スポーツセンター
11	1	釣り	文里湾堤防
	7	はまゆう支援学校保護者見学	勤労訪問
	21	あゆみ保育園園児来訪	スポーツパーク
	22	やおき運動会	火災を想定した避難訓練
12	29	防災訓練	
	8	買い物	パピシ・ユニクロ
	13	ボードゲーム	将棋・麻雀
	20	クリスマス会	
	20	利用者賞与支給	
28	利用者忘年会	かんぼの宿	
1	7	初詣	闘鶏神社
	18	やおき新年会	ビッグU
	24	茶話会	おしるこつくり
	31	利用者健康診断(1班)	はまゆう病院

2	1	利用者健康診断(2班)	はまゆう病院
	7	カラオケ、ビリヤード、ネカフェ	コミックバスター
	14	観梅	みなべ梅林
	16	ふれあい文化祭	ハナヨアリーナ
	26	将棋大会	ボランティア事業(4名参加)
3	7	外食	和わ
	8	虐待防止研修	ビッグU
	14	買い物レク	パビシ
	16	家族懇談会	
	28	防災学習、避難訓練	大規模地震・津波・火災を想定

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	30年4月	31年3月
定員	20人	20人
実利用者数	25人	23人
1日平均利用者数	20.2人	20.1人
職員常勤換算配置数	5人	5人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数
	239日	1日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	2,768,765
	印刷事業	607,828
	古紙等リサイクル事業	406,140
	製菓自主製品事業	198,760
	野菜販売、物品販売等	264,772
		計 4,246,265 円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 月額 15,000 円	実績 月額 12,684 円

【障害者就業・生活支援センター事業】

紀南障害者就業・生活支援センター

1. 運営方針

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行っていく。

2. 事業報告

例年通り、当初計画と当事者のニーズに沿って、就業・生活支援を行ってきました。今年度、特に目立った支援として、成人になってから診断を受けた発達障がい者への支援で自己肯定感を持ってない当事者、家族の障害受容が難しい当事者に苦慮しています。実習を行い、就職への斡旋を行いますが、実習では把握することができなかった問題が生じてマッチングの難しさ、精神科を受診している当事者には受診同行、相談事業所が関わっていたケースについては連携を行い、企業への理解を図りながら就業・生活支援を行っています。

知的障がいを持たれた方の二次障がいへの対応、高齢による能力低下、企業の業務変更への対応も増えているところでもあります。特に高齢による能力低下に加え、身体症状の現れ、体調管理の難しさも出てきております。自分の症状がうまく伝えることができなかつたり、医師の言っていることが理解できづらくなっていたりもしていることから医療機関からの受診同行の依頼。また、『A型サービス利用からの一般就労希望者への対応』、『休職中の方への定期面談』、『前職でトラブルとなったことを受け、再就職先で同じことを繰り返さないために、当事者の精神的ケアの一環としての定期面談』も増えつつあります。

グループやペア就労を法人独自の就労センター立ち上げから数年間行ってきましたが、数年前の景気低下に伴い、1企業でのグループやペア就労が難しく、単独での就労になっていました。最近になり、グループやペアでの就労の受け入れも出てきています。しかし実習中は問題なく過ごせていましたが、一緒に仕事をするにより違った面が見え始め、同僚の言動などを気にしだし対人関係の悪化を招くことがありました。その度に企業と相談を行い、企業側の配慮を受け、当事者との面談も行ってきましたが、結果退職に至るケースが数件ありました。

成人になってから診断を受けた発達障がい者の方への支援で、専門機関である和歌山県発達障害者支援センターポラリスよりアドバイザーを招き勉強会を行ってきました。今まで支援をしている環境や手法のミスマッチの指摘を受けました。しかし、時間を要する対応が必要となる障がいであることから、引き続き支援を行っています。

障がい者雇用率が引き上げられたことによる企業様側からの雇用受け入れ相談、田辺市の雇用率未達成問題への相談対応があり雇用に向けての方向性は高まっているところではあります。しかしながら、業務へのマッチングが難しかったり、交通面での問題が生じたりと中々スムーズに進んでいない状態です。福祉サービス事業所で訓練をされている当事者への支援では、連携を図ることはできていますが、在宅希望で登録されている人への斡旋と定着をどのようにしていくかが課題として残ってきています。

①就労支援活動

- 1) 就職に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）
 - ・体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援
- 2) 求職支援活動
 - ・ハローワークへの同行等による求人検索
 - ・地域新聞等広報紙による求人への相談と対応
 - ・独自の企業開拓
- 3) 職場定着支援
 - ・ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）
 - ・就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問
 - ・職場、生活面での相談対応
- 4) 事業所に対する障がい者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言【9/26】
- 5) 関係機関との連絡調整・会議
 - ・運営協議会の開催【3/6】
 - ・和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議【6/29】【10/19】【2/25】
 - ・特別支援学校連絡会【6/7】【8/24】
 - ・ハローワークとの連絡会議【6/13】【3/19】
 - ・全国就業支援 NW 定例研究会参加【6/1～6/2】
 - ・近畿ブロック経験交流会【10/26】
 - ・西牟婁圏域自立支援協議会就労部会活動【6/22】【7/13】【10/12】【1/22】【3/2】【3/6】
 - (1) 圏域内就労移行事業所 4 カ所との連携会議【毎月 1 回 指定曜日】
 - (2) 圏域内他法人間でのジョブコーチ支援【毎月第 4 月曜日】
 - (3) セミナー等の開催
 - ・和歌山県障害者職業センターとの連携（月 1 回・職業評価、拡大ケース会議）
 - ・和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）【6/6】【3/7】【個別ケース随時相談】
 - ・各研修会学習会への職員派遣
 - ・移行事業所職員・当事者への作業基礎訓練実施（JST トレーニング）【3/13】

②生活支援活動

- 1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言
 - ・医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
- 2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
 - ・行政手続き補助および代行
 - ・ワーカーズクラブの活動補助
- 3) 関係機関との連絡調整・会議
 - ・全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会【繁忙により不参加】

③個別支援関係

- 1) ジョブコーチ支援の実施【毎月第4月曜日連携会議】【随時】
- 2) A型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- 3) B型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- 4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】

④余暇活動支援

- 1) 職場定着者促進のための在職者交流活動
 - ワーカーズクラブ活動補助
 - 他法人との在職者交流会（県外・県内）茶話会・スポーツ交流・語りべなど

3. 地域交流等活動

- ① 地域交流活動
- ② 地域貢献（公益）活動

4. その他の活動

5. 行事報告

ワーカーズ活動

	行事	備考
5月	他府県とのコミュニケーション研修	11名
7月	BBQ	47名
10月	1泊旅行	51名
11月	研修（生活習慣病）	40名
12月	忘年会 語りべ（大阪）	47名 登壇者
2月	研修（避難訓練、交通安全）	43名

3月	総会	45名
----	----	-----

基礎体力講座

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
67名	50名	56名	56名	38名	56名	39名	29名	56名	53名	55名	25名
4回	3回	4回	4回	3回	4回	3回	2回	4回	4回	4回	2回

6. 数値実績

登録者数 253名（内新規40名）

相談・支援件数 8,857件

職場実習 51件

就職者数 27名

職場定着支援 3,138件

センター長	1名（主任兼務）	横矢
就業支援ワーカー	1名	汐崎
主任定着支援ワーカー	1名	入口
就業支援ワーカー	2名	阿部・岡崎
生活支援ワーカー	1名	垣本
事務補助	1名	北山（7月～）
ジョブコーチ	2名	西岡・杉本

【田辺市地域活動支援センター事業】

紀南地域活動支援センター（Ⅲ型）

1. 運営概要

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動をおこなってきた。

2. 事業報告

①就労支援活動

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。ルアー削りの契約を終え、お菓子の袋詰め・缶バッチ制作などを行い、月1回の企業清掃にも全体で取り組み、所属感の向上を図った。

また、希望者については職場実習への斡旋、就職希望の方への就労支援も就業センターと連携を行い、30年度は、アルバイト1名、一般就職者は7名（1名退職）となっている。

②生活支援活動

レクレーション活動を通じて調理実習、外出活動を行ってきた。

③個別支援活動

受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

3. 地域交流活動

特に無し

4. その他の活動

特に無し

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	スポレク（高雄中）	10月	スポレク（高雄中）
5月	スポレク（高雄中）	11月	スポレク（高雄中）
6月	スポレク（高雄中・上秋津） ドライブ・釣り	12月	スポレク（高雄中） 大掃除・餅つき・たこやき
7月	スポレク（高雄中・上秋津）	1月	スポレク（高雄中）

8月	スポレク（高雄中・上秋津）	2月	スポレク（高雄中） 遠足（観梅）
9月	スポレク（高雄中・上秋津） BBQ	3月	スポレク（高雄中）

6. 数値実績

(ア) 月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	20	21	21	19	19	18
開所日数	20	20	20	21	18	17
平均利用者数	9.9	11.1	9.6	9.4	10.5	8.2

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	15	16	19	15	14	15
開所日数	22	21	19	19	19	19
平均利用者数	7.6	7.8	9.7	8.2	8.4	9.1

(イ) 市町別（3月末）

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
13人	0人	2人	0人	0人

(ロ) 障害別（3月末）

知的	精神	身体	発達	その他
5人	9人	1人	0人	0人

(ハ) 年齢別（3月末）

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
0人	8人	6人	0人	1人	0人

(ニ) その他

【共同生活援助（グループホーム）】

サンヒルズ

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）・浜市社宅（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

みなべ鹿島ホームと浜市社宅を従たる施設として追加し運営を行った。土日祝の支援については昨年同様巡回指導を継続、生活指導を主としての世話人職員を配置。

みなべエリアについては、建物の老朽・消防設備の不備などもあり改善については対策してきたが、次年度には契約の更新時期でもあることから移転を検討していくこととなった。田辺エリアも老朽問題があり、台風での被害から保険での一部改修を行うことはできたが、クローバーホームは大規模な改修が必要になることもできた。

世話人の配置については夜間の短時間支援と分けて、日中の支援についてはバックアップ施設として、田辺エリアは、就業・生活支援センター職員とジョブコーチ、みなべエリアについては「すまいる」が就業場所への訪問などを行った。就業定着支援の一環として生活支援・指導も行い早期の問題解決に努めた。しかし、身体的な問題や、支援を行っていたにも関わらず断薬した利用者が発生し、3名の退職者が出ることとなった。

今期退所者は0名で新規入居者が2名。1名は支援学校卒業生。1名の利用者は圏域内で遠方の利用者で地域での就職先が無く、田辺近辺での就職となり同時にグループホーム利用となった。

昨年同様、家族不和によるグループホーム生活希望者の体験利用、単身生活での不具合からの一時利用などはあったが継続した利用には至らず。高齢化問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。当事者のニーズで支援を行う事だけでは、その問題は解決されずマンパワーの必要性だけが感じられている。

① 生活支援活動

やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事 他）

医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

② 個別支援関係

就職相談・定着相談・金銭管理・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への加入はしている）

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎週木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月		
9月	講座	
10月	ワーカーズ旅行（大阪府）	
11月		
12月	ワーカーズ忘年会（マルキ精肉店）	
1月		
2月	交通安全研修会	
3月	防災・避難訓練、当事者会議	

6. 数値実績

7. 利用者の年齢層

ホーム名	サンヒルズ（全体）					
	30年4月	31年3月	性別	男	女	計
定員	30人	30人	10代	1人		1人
実利用者数	26人	27人	20代	7人	4人	11人
			30代	2人	1人	3人
職員常勤換算配置数	7.5人	7.5人	40代	5人		5人
			50代	7人		7人
年度中の入退所	入所	2人	60代			0人
	退所	0人	70代			0人
利用市町村内訳	田辺市	12人	計	22人	5人	27人
	白浜町	2人				
	みなべ町	2人				
	上富田町	2人				
	すさみ町	2人				
	その他	7人				

【就労継続支援B型事業所】

古道ヶ丘

1. 運営概況

・台風、地震などの災害により保養所収入の大幅ダウンとなった。保養所事業は自然災害に多大なる影響を受ける。収入がダウンしても施設維持管理費の支出はかわらない。今後の田辺市委託事業について新たな考え方を検討していく必要がある。

2. 事業報告

①就労支援活動

田辺市委託事業

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなう）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）
老朽化に伴う給水ポンプ新設入れ替え工事完了、今後、体育館施設の老朽化について継続して話し合う。今年度が指定管理3年更新の最終年度となる。
- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）
防虫・防鳥ネットなど使い収穫増量を目指す但昨年度と変わらない量（約20キロ）の収穫となった。

授産事業

- ・平均工賃向上の取り組みを行ってきたが、前年度より保養所の収入が少なく保養所の維持管理作業（草刈、清掃など）の業務委託費として授産にまわすことができず工賃アップにつなげることが出来なかった。
- ・内職作業（かげろうの箱折り）の出荷の減少。一年をとおして出荷の数が少なく、おり終えた箱、生地の保管場所となってしまった。今後、継続してかげろうの箱折りをするかなどもふまえて検討していく。

②生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③個別支援関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ・高齢化にともない足の不自由な利用者が増えてきている。以前と同じメニューの作業にも参加しにくくなってきている。

4. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校4年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれ

た。

- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・町民運動会に参加し、地域との交流を深めた。今年度は運営委員会にも参加し積極的に意見をだしていきたい。
- ・地域の祭り（近露まるかじり体験、ふれあい文化祭など）に参加した。

5. その他の活動

保養所の集客を増やしていくため、市の観光協会、ツーリズムビューローなどとも話し合いの場を持った。

6. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月	バザー	
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	バーベキュー、運動会	
10月	おつかれさま会	
11月	ソフトボール大会	
12月	一泊旅行、クリスマス会	
1月	初詣	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月	班別レク	

7. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
	30年4月	31年3月
定員	30人	30人
実利用者数	25人	27人
1日平均利用者数	23.7人	21.2人
職員常勤換算配置数	30年4月	31年3月

	5.6 人	5.6 人
年間稼働日数	総稼働日数 249 日	休日開所日数 8 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	保養所委託事業関係	2,787,034 円
	内職作業	674,211 円
	アルミ缶回収など	151,270 円
	計	3,612,515 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 15,000 円	実績 11,056 円

8. 利用者の年齢層

性別	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男	0	1	4	2	1	3	11
女	2	3	3	2	5	1	16
計	2	4	6	4	7	4	27

本宮くまのこ作業所

1. 運営概況

近隣バザーや本宮町内の行事等に積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流を図った。昨年同様に休日開所を古道ヶ丘と合同で行い、参加しやすい行事を実施することで、利用者の参加意欲を促進し給付費増を図った。また可能な限り利用者の予定に合わせた送迎体制を組むことで通所しやすい環境を整えた。諸事情により欠席が続いている利用者に対しては定期的に訪問等を実施して、通所につなげることができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

箱折り、茶葉選別、野外作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力を入れた。箱折り作業では目標枚数を設定して、作業に対するモチベーションの増加を図った。また作業の苦手な人に対しては作業の分業制を取り入れて、作業効率の向上や作業に参加しやすい環境を整えた。また、新たな野外作業の開拓にも取り組んだ。

②生活支援活動

年1回の健康診断を実施。
体重管理の苦手な人に向けて作業前のウォーキングを実施。
防災計画に基づき年2回の防災訓練及び非常食体験実施。
季節ごとのレクリエーションを企画及び実施。

③個別支援関係

個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を実施。

3. 地域交流活動

本宮女性会の方々と本宮大社近くの花壇に花植えの実施。
定期的にゆる体操を実施し、地域ボランティアの方々との交流。
地域交流として、小中学校の発表会や身体障害者連盟の行事に参加。

4. その他の活動

本宮地域に事業所活動を周知する為、月1回「くまのこだより」を発行。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	古道レク（花見）	
5月	古道バイキング	
6月	古道バイキング・ボウリングレク	
7月	花植え・健康診断	
8月	大掃除・防災訓練・ドライブレク（串本）	
9月	古道ヶ丘合同BBQ こだま祭りバザー	
10月	古道バイキング・ソフトボール大会 グラウンドゴルフ大会	
11月	やおき運動会・古道バイキング	
12月	父母の会合同クリスマス会・一泊旅行 古道合同クリスマス会・年末大掃除・花植え	
1月	初詣・やおき新年会 古道バイキング	
2月	ボウリングレク・古道バイキング	
3月	ドライブレク（那智勝浦）・防災訓練	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	30年4月	31年3月
定員	10人	10人
実利用者数	13人	12人
1日平均利用者数	10人	9人

職員常勤換算配置数	30年4月 2.87人	31年3月 2.87人
年間稼働日数	総稼働日数 252日	休日開所日数 14日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自販機	770,650
	受託作業(清掃)	360,000
	内職(箱折り・お茶)	279,120
	自主製品	36,500
	アルミ缶・古紙回収	123,420
	バザー・わされん活動	106,285
	計	1,675,975
工賃実績(一人当たり)	当初目標 7,200円	実績 6,799円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	2	0	1	0	2	5
女	0	0	2	1	3	1	7
計	0	2	2	2	3	3	12

【共同生活援助（グループホーム）】

こどうの家

1. 運営概況

平日の動きは日中施設の古道ヶ丘・くまのこ作業所と連携し日々の動きを把握し体調面のケアに活かした。男子の空き部屋に関して、地域の相談事業所等と連携し体験利用など積極的に空き部屋の利用調整を進め今年度から利用開始。女性ホームは、1名実家への帰省を希望し、3月末での引越しを行い退所、4月現在、空き室状態である。

2. 事業報告

①生活支援活動

- ・給食サービスの実施 朝食：火水金土日曜日 夕食月火木金土曜日
(株)南陽食品との契約を継続し、食事提供をおこなった。
- ・利用者の健康管理で、インフルエンザの予防接種を実施(11月)
- ・防災計画に基づく防災訓練(大雨等による洪水を想定)の実施(9月)
- ・緊急用防災品の備蓄の準備・防災リュックの配布
- ・年間で、8回の休日レクレーションを行った。
- ・休日の買い物支援をおこなった
- ・掃除や洗濯など日以上生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- ・病院への同行受診の実施
紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の補助をおこなった。
- ・自治会の支援
毎月定期的に実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援をおこなった。

②個別支援関係

- ・日々の生活費の使い方などの助言や管理支援をおこなった。
- ・服薬についての助言や管理の支援をおこなった。
- ・個別支援計画の作成に努め利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した。

3. 地域交流活動

- ・町内会への加入

4. その他の活動

- ・職員の直接処遇技術の向上のため、各種研修会に参加した

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	外食レク	10月	BBQ
5月	古道歩き	11月	ボウリング
6月	太地くじら博物館	12月	一泊旅行
7月	ドライブレク	1月	回転寿司
8月	なし	2月	ビュッフェ・白浜水族館
9月	ラウンド1	3月	なし

6. 数値実績

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
	30年4月	31年3月	30年4月	31年3月
定員	5人	5人	6人	6人
実利用者数	4人	4人	6人	6人
職員常勤換算配置数	3.79人	3.79人	3.79人	3.79人
年度中の入退所	入 所 退 所	人 人	入 所 退 所	人 人
利用市町村内訳	田辺市	3人	田辺市	3人
	白浜町	人	白浜町	1人
	みなべ町	人	みなべ町	人
	上富田町	1人	上富田町	人
	那智勝浦町	人	那智勝浦町	1人
	その他	人	その他	1人

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70台	計
男	0	0	1	1	1	0	1	4
女	0	1	2	2	1	0	0	6
計	0	1	3	3	2	1	1	10

【就労継続支援B型事業所】

龍の里作業所

1. 運営概況

平成30年度は利用者の入れ替わりが多くあり、特に40代の女性の利用者の変動が大きかった。授産活動においては、主力の作業が梅の種取り作業からスポンジの袋入れ作業にとって代わる形となった。施設外作業は週2回となり、工賃アップには影響を与えたものの、参加する利用者の確保と維持に苦勞した。

2. 事業報告

①就労支援活動

授産活動では、自主製品の「よもぎの葉」「龍神杉のコースター」「クッキー類」が地元の道の駅を中心に安定した売り上げをあげている。「よもぎの葉」については、諸事情により、生産量が昨年の半分に減少し、従来の顧客ニーズに対応することができなかったため、今後は生産調整が必要となる。下請け作業については、スポンジの袋入れ作業などの昨年度の新規開拓により、安定して取り組むことができ、大幅な増収につながった。

便利屋や農産物の生産については、自然薯の売り上げが伸び、草引きや高齢者宅の清掃などは例年通りであった。施設外就労では、参加する利用者が増え、全体の平均工賃を引き上げに貢献することができた。そして就労を希望する利用者に対しては、就業支援センターの協力のもとに職業評価を受け、今後の支援の方向性を示すことができた。

平均工賃の推移（月額）

27年度	28年度	29年度	30年度
7,442円	8,314円	8,683円	11,461円

②生活支援活動

日々の生活課題や金銭管理などについては、社協や行政局と連携して制度の活用を進め、問題解決に努めた。

健康面で課題のある利用者に関しては定期的に健康相談を実施し、保健師の指導を受けた。10月には利用者全員に対し、栄養士による指導を受け、生活習慣の改善への対策を行った。

③個別支援関係

個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら

個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

④余暇活動支援

月一回程度のレクリエーションでは、社会生活体験を重視し、目的を持った取り組みを行った。旅行

3. 地域交流活動

地元では翔龍祭や地域のイベントに参加し、舞台発表では利用者の踊りを披露、利用者自身が主体的に参加することができた。地元社会福祉協議会主催のバスツアーに参加し、地域住民との交流を深めた。

4. その他の活動

避難訓練（年二回）を実施。

健康診断は全員実施したが、40歳以上の利用に関しては、住民健診を勧め、より詳細な項目によって検査を行った。

5. 行事報告

月	行事等	備考
4月	ハイキング（新庄公園）	
5月	ボウリング	
6月	カラオケ、健康診断（40歳以上）	
7月	買い物レク（和歌山イオン）	
8月	大掃除	
9月	高齢者交流会、ソフトボール大会	
10月	一泊旅行（徳島方面）、避難訓練、グラウンドゴルフ大会、血管いきいき教室	
11月	やおき運動会、社協バスツアー（海遊館）、翔龍祭	
12月	大掃除、忘年会	
1月	初詣（本宮大社）、やおき新年会	
2月	ふれあい文化祭、健康診断（39歳以下）	
3月	避難訓練、買い物レク（和歌山イオン）	

6. 数値実績

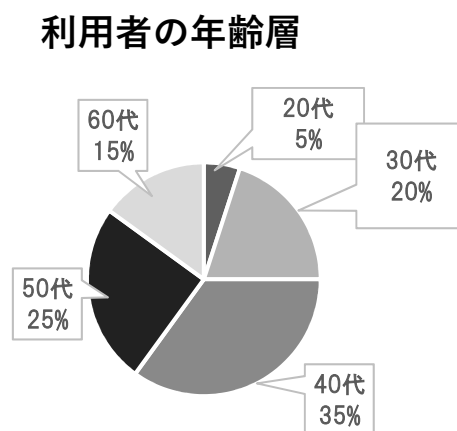
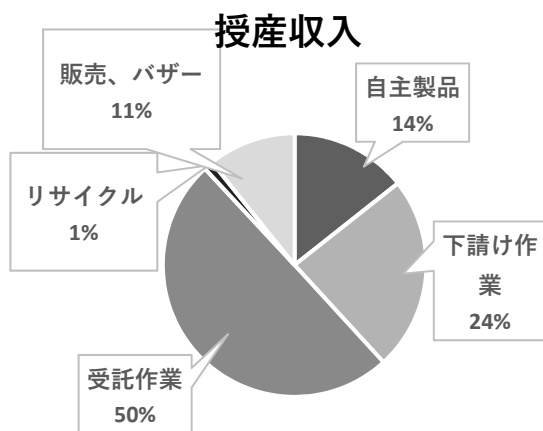
種別	就労継続支援B型	
定員	30年3月 20人	31年3月 20人
実利用者数	30年3月 20人	31年3月 20人
1日平均利用者数	30年3月 16.6人	31年3月 15.9人
職員常勤換算配置数	30年3月 5.4人	31年3月 5.4人
年間稼働日数	237 休日開所日数 4日（うち振替3日）	242 休日開所日数 4日（うち振替3日）
工賃実績（一人当たり） 当初 10,000円	実績 <u>11,461円（月額）</u> <u>215円（時給）</u>	

授産科目及び授産収入	科目		収入（円）
	自主製品	お菓子	348,806
		ぞうきん、はがき	421
		龍神杉のコースター	46,163
		よもぎの葉	94,159
		アクリルたわし	18,360
		農作業	87,738
	小計		595,647
	下請け作業	ねじ袋詰め	82,098
		亀井商店	500,892
		梅種取り	16,093
		椎茸シール貼り	265,700
		梅シール貼り、箱おり	125,110
	小計		989,893
	受託作業	龍神マッシュ実習	58,400
		便利屋	286,065
		花いっぱい運動	1,200,000
	小計		2,070,065

リサイクル	アルミ缶回収	44,820
	高尾運輸	2,784
小 計		47,604
販売、バザー等	そうめん、うどん販売	186,500
	チョコレート	119,500
	花苗	50,500
	バザー	90,660
小 計		447,160
総 計		4,150,369

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	2	3	1	7
女	0	1	3	5	2	2	13
計	0	1	4	7	5	3	20



【就労継続支援B型事業所】

か〜む

1. 運営概況

前年度の1日あたりの平均利用者数13.8人に対し、平成30年度は13.3人と前年度より0.5人減という実績であった。新規利用者の受入れが2人に対して、退所者が3人であり、登録者数は1人減となっている。利用者の増減は少なかったが、欠席が長期間になるケースや入院した利用者が複数あり、前年度の実績を下回る事となった。

前年度同様、毎週木曜日のレクリエーション、季節ごとの行事、多人数が苦手な人の為の班別レクなどを取り入れ、作業だけではない「ゆったり型」の作業所として運営に努めた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・梅塩の袋詰め作業は、単価が良く授産の収入を増やすために取り組んでいたが、5月の途中から10月までストップがかかり、思っていた収入には届かなかった。
- ・梅作業の効率を良くするため、機械を導入した。
- ・工賃向上を目的にバザー活動に力をいれ、年5回参加した。又、接客や他の人との協力、達成感など作業所では味わえない体験が出来た。
- ・10月より、宮惣ケミカルのペットボトル作業に毎週水曜日参加。か〜むとして施設外就労は初めてであるが、毎週休むことなく参加出来た。

② 生活支援活動

- ・支援が必要な利用者に対して、服薬管理や金銭管理を実施した。服薬や金銭については受け渡しに関するトラブルを防ぐため、記録を残し実施した。
- ・生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、買い物支援を継続して実施した。
- ・年1回の健康診断を実施し、精密検査が必要な利用者には関係機関や家族との連携に努めた。
- ・防災学習の一環として稲村の火の見学を行い、次の日に津波を想定した避難訓練を行った。

③ 個別支援関係

- ・通所が滞った利用者に対し、電話連絡や家庭訪問等も取り入れながら、次の通所につなげる取り組みを行なった。
- ・アセスメントを行い、個別支援計画に基づいて関係機関と連携し支援を行った。

3. 地域交流活動

年5回のバザー活動を通して地域交流を行なった。

4. その他の活動

スポーツレク（グランドゴルフ）では、他事業所との交流を行った。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	室内ゲーム、買い物、カラオケ	10月	BBQ（古道ヶ丘）、縁日、買い物、防災訓練
5月	こいのぼりバザー、ウェスタンリーグ グランドゴルフ、買い物	11月	調理実習（鍋）、買い物、上富田健康 まつりバザー
6月	外食（イオンモール）、ドライブ、買 い物	12月	調理実習（お好み焼き）、クリスマス 会、買い物、大掃除
7月	かき氷、室内ゲーム、買い物	1月	初詣、外食、買い物、やおき新年会
8月	流しそうめん、かき氷、買い物、大掃 除、大塔夏祭りバザー	2月	観梅（南部梅林）、ドライブ、買い物
9月	空の日フェスタ（白浜町）、ぶどう園、 買い物	3月	健康診断、稲村の火見学、防災訓練、 買い物、送別会&忘年度会

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
定員	30 年 4 月 20 人	31 年 3 月 20 人
実利用者数	30 年 4 月 22 人	31 年 3 月 21 人
1 日平均利用者数	30 年 4 月 13.8 人	31 年 3 月 13.3 人
職員常勤換算配置数	30 年 4 月 4.9 人	31 年 3 月 4.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 251 日	休日開所日数 12 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	内職 (梅・塩・箱等)	701,196 円
	依託作業 (給食運搬)	283,600 円
	ジュース販売、自販機	415,520 円
	ペットボトル	107,000 円
	バザー活動	187,012 円
	その他	58,650 円
	計	1,752,978 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 5,320 円	実績 5,961 円

7. 利用者の年齢層 (平成 31 年 3 月末)

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男			2 人	1 人	3 人	3 人	9 人
女			1 人	6 人	3 人	2 人	12 人
計			3 人	7 人	6 人	5 人	21 人

(平均年齢：50.8 歳)

【就労移行・就労継続支援B型事業所等】

すまいる

1. 運営概況

今年度の運営方針に掲げていた高齢利用者の支援内容の充実であったが、年度始めより3名の高齢利用者の体調が不安定になり、支援内容でケアマネージャー、家族の方と話し合い、調整する事が多い年であった。今後も高齢利用者が増えていく運営を考えると、3グループ（高齢利用者サービス・生産活動サービス・就労訓練サービス）の住み分けが必要になってきている。今後の展開として、認知的に進行のある利用者は、生産活動者と別の場所での福祉サービス提供を前向きに検討していきたい。

今年度の法律改正で工賃実績を重視する流れで1年過ぎたが、生産活動の内容ばかりでなく、利用者が安心して通所出来る活動場所と、利用者の住み分けの環境整備が必要だと思う。今後、施設内作業内容を検討し、施設外作業の実習先を増やしていく事も考え、工賃アップに繋げていく展開を考えていきたい。

2. 事業報告

①就労支援活動

「就労移行支援」 就職者 2名

- ・施設内訓練ーすまいる、ぼのぼの工房において、個別での就労訓練に取り組んだ。

利用者支援として、作業訓練を主とするよりも、対話でのコミュニケーション

が困難な利用者が多く、環境に慣れる事を始め、個々の能力に合わせコミュニケーションをとる回数を増やし、自己発信する力を習得して貰う練習を実践の中で取り組んだ。コミュニケーションを増やしていく過程において、利用者との信頼関係を築くよりも、家族との信頼関係を築く事を優先する必要があるケースが多かった。そして、ここ最近の傾向として増えているように思う。

今年度就職に繋がった利用者は、2名。支援学校卒業後、自法人での自立訓練終了後、就労移行支援を利用し2年で就職に繋がった。もう1人は、支援学校卒業後、就労移行支援A型を2年半利用し就職。3年就労するが、精神的な不安で自己退職。その後、就労移行支援を利用し、3ヶ月半で再就職する。半年継続するが、再度不安定になり、平成30年9月末で自己退職となった。その他定員8名のうち3名は、年度末に本人、家族と話し合いを持ち、期間内での就労が難しい為、就労継続支援B型にサービス変更する事になった。3名の支援で必要だった事は、集団生活の中で環境の変化に適応する期間が必要だった。作業習得が早く出来ても、適応性に配慮し本人の様子を見る期間として2年の期間は短く、個々に応じた、就労訓練期間が必要であった。来年度も就労移行支援希望の利用者、家族、関係機関と事前に意見交換、共

有し支援内容の充実を図っていききたいと思う。

- ・ぼのぼの工房では、今年度も接客業、製造に興味ある利用者の就労訓練の場として支援に取り組んだ。接客業は、事前練習を行い、日々実践で回数を増やし、個々の作業習得に繋げた。課題として就労移行支援の出張所での運営の為、就労する利用者も多く、就労後、その役割を担う準備が計画通りに進まない現状が続いている。今後の課題としても残るが、ぼのぼの工房の仕事内容を調整し検討していききたいと思う。

「就労継続支援B型」 就職者 1名

- ・施設内訓練－昨年と同じ仕事内容で生産活動を行った。今年度も閑散期もなく順調な生産活動の取り組みが出来たと思う。工賃の安定に繋げる為にも、繁忙期の休日開所、残業等、利用者の積極的な作業参加もあり、安定した生産活動を行う事が出来た。
- ・施設外訓練－利用者の希望を聞き参加出来る施設外訓練（梅加工業・梅採り・梅枝拾い・清掃業等）を提供し、仕事する体力作り、仕事の意識付けを図った。また、今年度から就労移行支援の実習先であったみなべ町梅屋実習を、就労継続支援B型の施設外訓練の実習場として毎日実習する取り組みを行った。毎日施設外実習する中で、反復指導による作業習得、施設内とは違う環境下での就労意欲維持、向上に繋げる取り組みが出来るようになった。この取り組みで、今年度就労継続支援B型から就労移行支援へサービス変更し、再就職を目指す利用者も出てきている。このような利用者を増やしていく為にも、継続して実習出来る実習先の職場開拓も視野に入れ、工賃アップに繋げる取り組みを今後も模索していききたいと思う。

②生活支援活動

「自立訓練」

- ・身だしなみ－歯磨き、洗髪、爪、服装チェックを、朝礼時毎日取り組む事で、本人の動機付けになり気にかける事が、出来るようになってきた。
服装は、季節替わりの際、薄着、厚着の点を、朝礼時、その都度声掛けを行い、仕事しやすい服装の心がけを行った。継続して利用者、職員全員で取り組み、習慣づけていきたい。
- ・掃除、給食当番－自立訓練として、利用者全員に取り組んでもらっている。
掃除は、施設外実習で慣れている利用者もいる為、施設内の美化にも繋がり、大変助かっている。給食当番は、食生活習慣を身に付ける事を目的に、給食後の食器洗い、後片付け（台ふき・生ゴミ処理等）に取り組んでいる。声掛けが必要な利用者は、当番と一緒にいき、衛生面に気をつける意識付けに繋げていきたい。
- ・調理実習－今年度の調理実習は、災害使用の備蓄食品の試食も兼ねて行った。身だしなみ（エプロン・三角巾）の着用から始まり、食材準備、調理、試食、後片付けの流れで行った。調理を自分でする利用者の方が少ない為、怪我しないよう見守り取り組んで貰った。食べる事に興味ある利用者が多い為、食べる時間が1番楽しい時間になっていた。

今年度も1回しか開催出来なかった為、今後も出来る範囲で、調理実習する機会を、増やしていきたいと思う。

「健康管理」

- ・健康診断—通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めた。市町村で行ってる健康診断の声掛けも行い、がん予防にも努めていきたい。
- ・体調管理—日々利用者の様子を見守り、必要な際は、家族に連絡し体調管理の安定に繋げるよう取り組んだ。今年度は、高齢利用者の支援が、多かった。女性利用者（67歳）足の痛みを訴えながらも通所するが、急に歩行困難になり通所出来なくなってしまった。以前から家族の方とも情報共有していた為、本人、家族と相談しセカンドオピニオン受診する。検査、入院等で4ヶ月かかったが、リハビリ治療を行い通所可能な状態に戻り安堵した。最高齢男性利用者（72歳）も、2年前よりデイサービスと兼用利用で通所を継続していたが、尿失禁、脱糞回数も増え、認知症、衛生的な問題もありデイサービスに移行してもらった。高齢利用者以外にも認知的に進んできている利用者も増えてきている。気になる際は、早期発見、早期対応で家族と話し合い体調面の安定に繋げていくよう心掛けていきたい。そして、冬場もインフルエンザ、風邪の症状でお休みする利用者も多かった。施設運営の中で、安全管理対策推進委員を中心に、日々病気、感染を予防する視点忘れず、観察、確認を心がけていきたいと思う。
- ・受診同行—利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声かけ支援（服薬の声掛け・確認）を行った。必要な際は、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組んだ。緊急性が高い際は、家族、関係機関との連携を密にとり情報交換、情報共有を行い、緊急対応する体制作り、役割分担の確認を行った。

③個別支援関係

利用者の意向を尊重し、出来るだけ具体的な目標設定を心がけ支援計画の作成を行った。目標がある利用者は、目標に向け前向きな気持ちで、取り組んでくれているが、目標が立てづらい利用者には、利用者に寄り添いながら、挑戦したい事を見つける支援を行った。本人の意向を中心に支援計画を立案するが、意思伝達等が難しい利用者は、家族の意向も確認し、個別支援計画作成に繋げていくよう心がけている。

行動障がいがある利用者は、必要な際は、日中の様子を連絡し情報共有を図った。不定期だが、本人、家族、医療関係者で話し合う場を持ち、虐待に繋がらないよう取り組んだ。

3. 地域交流活動・地域貢献活動

ぼのぼの工房を開所してから、約5年目を迎える。開所当初は、ぼのぼの工房主催でPR活動を行ったが、みなべ町団体と主催、協賛する催事が多い為、ここ何年か主催出来ていない状況である。出来る範囲でみなべ町団体と協力、連携し6回地域交流

活動に取り組んだ。来年度は、地域貢献活動を計画し実行していきたいと思う。

- ・春ーみなべ町商店街バザー（おかみの会・みなべ町商工会と協賛）
- ・夏ー夏の子どもまつり（みなべ町地域活動連絡協議会・みなべ女性会・紀州日高漁業協同組合・南部町支所・みなべ町青少年育成町民会議・みなべ川森林組合・みなべ町備長炭生産者組合・青年クラブみなべ・みなべ町産業課・みなべ町教育委員会と協賛）
- ・秋ーハロウィンパーティー（みなべハロウィンパーティー実行委員会として参加）
みなべグランドゴルフ大会（みなべはあとはあとグランドゴルフ実行委員会として参加）
- ・冬ー梅種飛ばし（出店参加）・岩本食品感謝祭（出店参加）

4. その他の活動

「相談事業」

みなべ町から委託で受けているみなべ町障がい者相談支援事業と、計画相談事業を行った。障がい者相談支援事業で継続し相談にのっている相談者は、57人（精神32人・知的13人・発達7人・身体3人・その他2人）。57人中新規相談者は、12人であった。今年度は、委託相談の中でもアルコール依存症の相談対応が多かった。西牟圏域にアルコール専門外来がない為、県立こころの医療センターに繋げ、通院治療を行い回復に繋げた。外来通院する際、受診だけでなく、断酒プログラムへの参加を促し、自分と同じ気持ちで悩んでいたりする当事者と語り共感、動機付けを図る取り組みに参加して貰った。家族の方も家族学習会に参加し、アルコール依存症について学習し、同じ境遇で悩んでいる家族の方との意見交換も気持ちの整理に繋がり、通院治療が継続出来ている。今後も経過を見守っていききたいと思う。

今年度も委託事業と並行して相談業務を行ったが、相談員の確保が出来ていない為、計画相談事業の相談者を調整し、委託事業との業務整理に繋げた。他相談事業所に移行する際、相談者支援で意見交換、共有する際に、相談員同士の意見交換で支援内容の視点を変える事が出来たりする事も多く、相談者支援で必要な事。今後もこのような機会を増やしていきたいと思う。その為にも、行政、関係機関とも協議し、相談員の確保、相談事業体制の基盤作り、緊急時の体制整備を図っていききたい。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月		10月	<ul style="list-style-type: none"> ・すまいる旅行（京都旅行） 日帰り旅行 （アドベンチャーワールド） ・やおき交流会 ソフボール （中辺路多目的球場）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・休日レク（イノブタ） ・避難訓練 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・みなべGG大会（共和球場） ・やおき交流会 運動会 （田辺スポーツパーク）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会催事参加 （アドベンナイトサファリ） 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・やおき交流会 ボーリング （ジストボール田辺店） ・クリスマス会
7月		1月	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣・食事会 （闘鶏神社・パピリオンシティ） ・やおき新年会（県立情報交流センター）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・スポレク ボーリング （ジストボール田辺店） 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・休日レク ふれあい文化祭 （ハナヨアリーナ） ・観梅（南部梅林） ・やおき杯カップ 将棋交流会 （市民総合センター）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・スポレク（大屋体育館） 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・休日学習会 語りべの会 （田辺東部公民館） ・調理実習 炊き込みご飯・おでん ポテマカサラダ （みなべ町生涯学習センター） ・避難訓練 ・休日レク 花見・送別会 （平草原・とれとれ市場・田辺かんぼの宿）

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	30年4月	31年3月	30年4月	31年3月
定員	7人	7人	20人	20人
実利用者数	8人	8人	28人	27人
1日平均利用者数	7.1人	6.9人	21.7人	19.6人
職員常勤換算配置数	2.9人	2.9人	4.9人	4.9人
年間稼働日数	総稼働日数 254日	休日開所日数 26日	総稼働日数 254日	休日開所日数 26日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	自主製(ぼの)	2,723,237	自主製(ぼの)	
	バザー	242,813	バザー	515,977
	施設内売上		施設内売上	3,107,771
	施設外売上	726,240	施設外売上	1,791,652
	受託作業		受託作業	708,554
	計	3,692,290	計	6,123,954
工賃実績(一人当たり)	当初目標 25,000円	実績 27,627円	当初目標 18,000円	実績 18,253円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	8	4	5	4	2	24
女	2	6	1	2	1	3	15
計	3	14	5	7	5	5	39

【就労継続支援 B 型事業所】

いなづみ作業所

1. 運営概況

日常生活に不安のある利用者数名をデイケアサービスに繋いだ。
週に 2 日入浴させてくれているので、ある程度の清潔は保たれている状態。
5 名の方が退所(就職 1 名、死亡 1 名、自宅 3 名)し、給付費の減少が危惧されたが、新しく 4 名の方(精神 1 名、知的 1 名、身体 1 名、アルコール 1 名)の利用が決まった。
身体障害の方は、半身に麻痺があり、他にも高齢な利用者が多い事から、今後 2 階へのアプローチを含んだ施設内のバリアフリー化を、より進めていく必要性を感じている。

2. 事業報告

①就労支援活動

29 年度末に地元で 1 名の就職が決まり、続いて 30 年度も就業センター経由で 1 名就職する事ができた。
しかし、主力メンバーが抜けた事による草刈り作業や洗車作業への影響が大きく、昨年と比べて作業効率が大幅に落ちた。
太陽光発電所については、通常管理業務に加えて、ケーブルを止めるハーネスの交換作業が追加で入った為、従来契約金にプラス 20 万円の収入があった。

②生活支援活動

3 名の方が作業所と併用してデイサービスの利用を開始したが、失禁の対応や着替え、洗濯の支援がかなり増えてきている事を踏まえ、いつまでいなづみ作業所の利用が可能なのか問題になっている。
また、眼科や皮膚科、肛門科等、町外にしかない専門病院への通院の必要も増えてきており、B 型事業所としてどこまで支援をすべきなのか、どこで線を引くべきなのかを考えていく必要がある。

③個別支援関係

アセスメント時の面接的な聞き取りだけでなく、日常の雑談や休憩時の会話の中からも本音のニーズを聞き出せるよう心掛けた。
個別支援計画も、メンバーにわかりやすい表現を使い、丁寧な説明を心掛けた。

3. 地域交流活動

町内行事に積極的に参加し、いなづみ作業所の存在を広く町民に知ってもらっている。同時に、バザーの売り上げによる工賃アップにも繋がっている。
また、便利屋を通じて、独り暮らしの高齢者の生活のお役に立てた。

4. 相談支援事業

すさみ町からの委託相談事業において、人数にして28名の町民から、計462件の相談を受けた。

中には、薬の運送だけ、病院への搬送だけ、といった業務も多く、他のサービス事業所と連携を深め、本来の相談支援業務に力を注ぎたい。

5. その他の活動

新しい避難路が整備されたので、その避難路を使った津波避難訓練を5月に行った。ただ、通路が山のすぐ傍にあるので、地震の際に土砂災害が起きないかが心配である。また、作業棟からの避難を想定した訓練も3月に行った。

6. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	愛の会和歌山バザー参加 野球観戦（上富田）	1月	ボウリング やおき新年会
5月	イノブタまつりバザー参加 勝浦観光船・まぐろ井 防災訓練	2月	将棋交流会 ボウリング
6月	ゲートボール道具贈呈式 買い物	3月	いきいきふれあいまつりバザー参加 自治会、防災訓練、送別会
11月	町民運動会バザー参加 ソフトボール大会		
12月	伊勢志摩旅行 和歌山電工ハナヨバザー 忘年会		

7. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型			
定員	30年4月	20人	31年3月	20人
実利用者数	30年4月	24人	31年3月	22人
1日平均利用者数	30年4月	16.3人	31年3月	18.9人
職員常勤換算配置数	30年4月	4.8人	31年3月	5.2人
年間稼働日数	総稼働日数	249日	休日開所日数	10日
授産科目及び授産収入 (別紙参照)	科目		収入(円)	
	自主製品		187,290円	
	物品販売		310,151円	
	バザー		508,550円	
	受託		2,508,700円	
	便利屋		2,214,276円	
	リサイクル		280,640円	
	計		6,142,517円	
工賃実績 (一人当たり)	当初目標		実績	
	時給 591円		時給 573円	
	月給 20,700円		月給 20,073円	

8. 利用者の年齢層

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	2	2	5	2	7(5)	2	20
女	0	0	0	2	2(2)	0	4
計	2	2	5	4	9(7)	2	24

※60代のカッコ内は65歳以上の人数です

平成 30 年度 いなづみ作業所 就労支援事業年間売上集計表

自主製品	野菜	42,820	3.0%
	肥料	140,570	
	石けん	3,900	
	小計	187,290	
物品販売	自販機	2,721	5.0%
	ちゃんぽん販売手数料	72,560	
	そうめん利益	78,200	
	ジュース売上	156,670	
	小計	310,151	
バザー		508,550	8.3%
リサイクル	古紙回収	164,990	4.6%
	アルミ	115,650	
	小計	280,640	
便利屋	墓掃除	176,000	36.0%
	草刈	1,525,744	
	洗車	396,120	
	家具処分	116,412	
	小計	2,214,276	
受託作業	若者広場	156,000	40.8%
	太陽光発電所管理	1,632,000	
	洗濯	639,700	
	きたじ掃除	81,000	
	小計	2,508,700	
その他		132,910	2.2%
合計		6,142,517	100.0%

